

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2012-07-15

APM news 065

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233

第15回美術館大学 7月7日(土) pm 3:00~4:30/受講者:72名

「『越後百景十選』について」 講師:河田博、秋山孝



秋山孝ポスター展も今回で4度目の開催となる。「越後百景十選」というタイトルが付き、テーマがより明確になった。ホクゲン経済研究所の副所長河田博氏と秋山孝ポスター美術館長岡 (APM) 館長秋山孝が、その「越後百景十選」について対談した。まず秋山館長より「越後百景十選」制作の経緯が語られた。江戸時代の「江戸百景」や「富嶽三十六景」といった浮世絵は、もともと旅行記であり、記念の印刷物として発達していったものであるが、秋山館長は現代の「江戸百景」や「富嶽三十六景」のようなものをポスターで制作したいとずっと考えていた。そこへ河田氏より「ホクゲンマンズリー」表紙デザインの依頼があり、「越後百景」を制作するに至ったのだという。河田氏からは、「ホクゲンマンズリー」表紙デザインを秋山館長に依頼した経緯が語られた。そもそも「ホクゲンマンズリー」とは、会員と全国の金融シンクタンクなどに配布している会報である。表紙はカラーで、パンフレットのような薄い冊子である。他機関の同様の冊子では、表紙に抽象的な図形や写真を使用しているものが多いが、「ホクゲンマンズリー」ではイラストを使っていこうという方針が決定した。そのような折、サポーターズ倶楽部会長・高田清太郎氏に誘われ、APM設立に関わったことが縁となり、秋山館長とお付き合いが始まった。機会が巡ってきたと感じた河田氏は、「ホクゲンマンズリー」の表紙デザインを依頼した。そして2011年1月号に越後百景・十選一番「ニッポニアニッポン・トキ」が表紙を飾る。「越後百景十選」カタログの中で秋山館長は「越後はまだまだ計り知れない魅力と、その美しさの満ちあふれた地形や人が育んできた文化がある。その奥深い歴史と人間性のある生活から出てくる言葉にはできないものや越後の美を、北斎や広重のように現代ポスター表現で発見したいと思っている。これから可能な限り越後を歩いて、見たこともない感動あるいはすでに周知しているが忘れ去った心を見つけ出したいと願っている」と語っている。いつか「越後百景二十選」や「越後百景三十選」を見ることができると待ち望んでいる。

(APM公式ホームページより抜粋)



第10回企画展「越後百景十選」懇親会風景